

平成 20 年度エコマーク事業収支決算報告

財団法人日本環境協会  
エコマーク事務局

平成 21 年 6 月 24 日に開催された財団法人日本環境協会の評議員会・理事会において、平成 20 年度エコマーク事業収支決算報告書が承認されました。下表に決算書を示します（次頁に詳細説明）。

平成 20 年度エコマーク事業収支決算報告書  
(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

△減(単位:千円)

科目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A	備考
I. 収入の部	千円	千円	千円	
1. エコマーク事業収入	209,400	204,468	△ 4,932	
2. 精算金	0	15,947	15,947	環境偽装により発生
3. 環境省委託等事業収入	5,000	1,870	△ 3,130	
4. エコマーク事業資金引当預金取崩収入	34,000	6,893	△ 27,107	
収入合計(a)	248,400	229,178	△ 19,222	
II. 支出の部				
1. エコマーク事業費	56,800	37,810	△ 18,990	
認定事業費	27,850	18,543	△ 9,307	
緊急対策費	8,000	2,530	△ 5,470	
普及啓発費	15,250	10,816	△ 4,434	
調査研究費	2,500	1,882	△ 618	
国際協力費	3,200	4,039	839	
2. 環境省委託等事業費	2,600	920	△ 1,680	
3. 管理費	189,000	190,448	1,448	
人件費	97,000	96,680	△ 320	
事務費(賃借料等の協会共通経費含む)	68,000	69,973	1,973	
事務所移転費	24,000	23,795	△ 205	移転費用を占有面積で按分し、負担分を算出
支出合計(b)	248,400	229,178	△ 19,222	
収支差額(a-b)	0	0	0	

## 1. 平成 20 年度エコマーク事業計画・予算の背景と平成 20 年度事業概況

平成 20 年 1 月に発覚した古紙偽装に端を発し、様々な環境偽装が発覚した。発覚の時点で平成 20 年度の事業計画ならびに予算はすでに策定作業がかなり進捗していたが、環境偽装への対応作業と併行しながら、平成 20 年度事業計画への環境偽装対応策の組み込み、収入ならびに支出の見直し作業を行った。環境偽装の全容が不明であり、不確定要素の多い中での見直しであったが、上記の見直しを行った事業計画と予算を平成 20 年 3 月 13 日開催の第 20 回エコマーク運営委員会に諮り、承認された。

平成 20 年度事業の実行においては、年度前半は環境偽装対応と不正使用防止対策の検討、年度後半には不正使用防止対策の実施に多くのマンパワーを要し、本来業務に影響を及ぼし、予算の使用にも影響を及ぼした。

## 2. 収入

### 1) エコマーク事業収入

平成 20 年度のエコマーク事業収入は 204,468 千円となり、予算に対して 4,932 千円の減である。

環境偽装の発覚は平成 20 年 1 月であり、平成 20 年の事業収入に影響したことは上述のとおりである。しかしながら、入金額を年度間で按分するという会計上の処理の関係から、環境偽装による減収の影響全体が現れるのは平成 21 年度である。

### 2) 精算金

平成 20 年 1 月に発覚した環境偽装問題の究明の過程で判明した認定基準不適合のあった企業に対して、エコマーク事務局では、エコマーク使用契約に基づく精算金の請求による制裁措置を講じた。平成 20 年度においては、15,947 千円の精算金収入となったが、これは平成 20 年度のみの一過性の収入で、恒久的な収入源ではない。

### 3) エコマーク事業資金引当預金取崩収入

収支のバランスから取崩金額は 6,893 千円となり、予算に対して 27,107 千円の減である。

### 4) 収入合計

収入合計は 229,178 千円で、予算に対して 19,222 千円の減である。

## 3. 支出

### 1) エコマーク事業費ならびに支出合計

エコマーク事業費は 37,810 千円で、予算に対して 18,990 千円の減である。

#### 費目別の支出概況

- (1) 認定事業費（委員会・WG 運営費、WG 業務外注委託費、システム保守・改造費など）
  - ・ 認定事業費の支出は予算に対して 9,307 千円下回った。

・主な要因：①類型・基準制定委員会・WG 運営費は実施回数が予定より少なかった。②WG 外注委託費、新規商品類型選定調査費について内製化に努めた。③類型・基準制定委員会の開催の都度、エコマークニュースを発行するが、類型委の回数が少なかったため、エコマークニュースの発行回数が予定より少なかった。④システム改造費を予備費として計上していたが、使用する必要がなかった。

## (2) 緊急対策費

・緊急対策費は、環境偽装の全容が明らかでなく、予算の内容・金額の詳細を詰めることができない状態で、現地監査費と不正使用防止対策の検討委員会等を想定して、大枠として8,000千円を計上した。使用実績は、予算に対して5,470千円下回った。

・主な要因：①現地監査を平成20年1月から3月の間に集中的に実施したこと、②平成20年度に入ってからのは、遠距離出張を要する案件が多くなかったことから、多額の現地監査費用を使用する必要が生じなかった。

なお、緊急対策業務のマ manpower 不足に対処するために、臨時に派遣職員が本業務に従事したが、この費用は認定事業費に計上している。

## (3) 普及啓発費（小売店キャンペーン運営費、ホームページ管理費、各種イベント・フェア参加費、マスメディア広報費、資料英訳費及び新規事業検討費など）

・普及啓発費の支出は予算に対して4,434千円下回った。

・主な要因：①各種イベント・フェア参加費の抑制、②内製化による資料英訳費の抑制、③東海三県一市キャンペーン協賛費の抑制。

## (4) 国際協力費（GEN 総務事務局運営費、GEN 会費、海外ラベル協力活動費）

・国際協力費の支出は予算に対して839千円上回った。

・主な要因：世界エコラベリング・ネットワーク GEN の年会費を2ヵ年分支払った。（GEN からの請求書に即応し、GEN の会計年度と整合させた。）

## 2) 支出合計

エコマーク事業費に環境省委託等事業費と管理費を含めた支出合計は229,178千円で、予算に対して19,222千円の減少である。

以上